

---

Dear

サイルレン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Dear

### 【Nコード】

N2737W

### 【作者名】

サイルレン

### 【あらすじ】

俺君シリーズ第5弾。「君の居ない世界は寂しい」(『From』のアンサーサイド。)

アスファルトに涙が染みる。  
そこから咲く花は、何故か君に似ている気がした。

「ダンデライオン」

あの日この気持ちを伝えていたら、今こんな風に悲しくなかったかな。

過去に縛られて、思い出に浸る恋が、こんなに辛いと思わなかったよ。

どうして君は何も言ってくれなかったの？ずっとそれだけが言いたくて。だけど伝える術なんて私にはない。

最期の日君が置いていった手紙を、私は毎日読んで抱き締める。

僅かな君の匂いや温もりでも欲しかったから。

だからお願い、温もりまで私から奪わないで。

君に「明日ね」って言ったとき、もしかして辛くて仕方なかったの？

その歪んだ顔の原因が、今なら分かる。

あの時先延ばしにしていなければ良かったのに。私は何も知らなかった。

君が教えてくれた愛すら、何も分かってなかったの。

私、君が死んでしまった後に皆に聞いて回った。でも君は一人を除いて、誰にも自分のことを言わなかったんだね。

徐々に減っていく面会時間の中、友達は君のそばに居たらしい。しきりに私の心配していたって聞いたよ。

やっぱりあの時気付くべきだったんだ。会える日が減っていたことに。（そう簡単に外出許可なんて出ないもの）  
会えば寂しそうに頭を撫でることに。

抱き締めることが無くなったことに。（やせ細ったことを悟られな  
いためでしょ）

おばさんの赤い目に。（人知れず泣いた跡ね）

少し高価なネックレスに。（最後の誕生日プレゼントのつもり？）

全て終わったあとに気付いたこと。もう私は一人なんだって。  
同じ季節をたった2回過ごしたくらいで、私たちの思い出は成り立  
っていた。

旅行先に部屋で夜更かしして皆で遊んだ夏も、大勢でパーティーを  
した最後のクリスマスも、君の存在が濃く刻まれているんだよ。  
罰ゲームのキスの味だって、まだ色褪せてはいないのに。

君は「思い出を持っていく」なんてかつこつけて。君が一人で拾っ  
て持っていけるほど、薄っぺらい思い出なんてないのに。  
私だけじゃなくて、友達全員の心に刻まれているんだから。

「何年経っても忘れてなんてやらないんだから」  
君と撮った写真の前で、私は口を尖らせた。

『Brand New Season』 新しい季節を、私の心  
に強く刻みつける。

それが居なくなつた君への、私なりの愛情だから。

アスファルトに咲いた黄色い花。獣の王の名をしたその花は、何故  
か君に似ている気がした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2737w/>

---

Dear

2011年8月30日16時55分発行